平成29年度　江戸川区立清新ふたば小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○知　しなやかな子ども（よく考え、進んで勉強や仕事をする子ども） ○徳　おだやかな子ども（思いやりの気持ちを持って助け合う子ども） ○体　すこやかな子ども（ねばり強く、丈夫な体をつくる子ども）	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	～ひとりひとりの豊かな「育ち」と確かな「学び」を目指して～ ○豊かな心・社会性・人間性の涵養（知識⇒知恵⇒行動）　○確かな学力の定着・向上 ○地域・家庭とともに歩み育てる学校（共育・共創・協働）　○教職員全員が子どもの鏡
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ 統合新校として地域や保護者と意見交換を積み重ねながら学校づくりを行ったことで、地域に「清新ふたば小」の教育方針や内容が周知され、支援者や理解者が増えたこと。 ＜課題＞ 平均年齢35才の教師集団をOJTを重ねながら組織的に育成し、授業力向上を図っていくこと。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	評価指標・評価基準		自己評価			学校関係者評価		次年度に向けた改善策
			取組指標	成果指標	取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
21世紀にふさわしい教育の推進	学校図書館活用の推進	図書館を活用した授業の充実	図書館や図書を活用した年間50時間以上の取組	全学級、50時間以上の活用	B	B	○読書科を中心に図書活用が増えた。 ●活用計画を立案していく。	A	指導に結びついた取組ができている。これまでのことを継続して欲しい。	（他教科も含めた）活用計画の立案・作成
	ICTを活用した授業の推進	ICTを活用した協働学習等の授業の充実	教員向けICT研修3回 ICT機器活用の授業 週3回以上	児童アンケート肯定的回答80％以上	B	B	○様々な教科で活用することができた。 ●児童・保護者が認識できるように工夫する。	B	工夫して指導していることを保護者に周知することが大切である。	授業のユニバーサルデザインとICTを関連させる。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	小中連携を踏まえた児童生徒の円滑な接続の充実	清臨地区小中授業参観・意見交換会を年8回開催	小学校における各学年基礎学力の定着（90％以上）	A	C	○小中で各教科の目標を共通理解できた。 ●実践の振り返りを行っていく。	B	小中連携の継続性が大切である。基礎学力定着の効果検証もお願いしたい。	清臨教での話し合いを深め、目標を共有していく。
	オリパラ教育の推進	オリ・パラ教育を踏まえた3つの視点に関する取組の充実	実施計画書に基づく年間35時間の取組	児童アンケート肯定的回答90％以上	A	B	○興味をもつ児童が増えた。 ●児童の意識付けを更に行う。	B	PTAと区との連携イベントが素晴らしかった。地域にも広げられた。	体験で終わらないように、各教科と関連付ける。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	補習の実施等による、きめの細かい指導の徹底	補習年35回	児童一人一人の学習状況に即した学習指導の充実	A	B	○確実に実施をしたが、残す人数によっては、個に応じた指導が難しかった。	A	きめ細かい指導は、保護者にとっても子供にとってもありがたいことだと思う。	学年で補習内容によりクラス分けをするなど学習形態も工夫する。
	確かな学力の向上	ベーシック等を活用した国語、算数（数学）、英語の基礎基本の徹底	ベーシック診断シート年2回	正答率・達成率を過半数が70％以上	A	B	●繰り返し行い、習熟を徹底する。 ●診断の分析をし、活用を図る。	A	教師の確かな意識が認められる。	方法の改善を図り、時間の確保をしていく。
	運動意欲の向上	休み時間や体育の授業における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	全児童が、中休みは外遊びをする	「運動が好き」児童アンケート80％以上	A	B	○8割以上の児童が外遊びをしている。全校運動遊びも定着した。	A	配慮が生きている。今後どのように成果を深めていくか期待するところである。	体育実技などの指導法研修を行う。
相談体制健全育成の充実	いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	学期ごとに児童アンケート SC・保護者との迅速な連携	いじめ・不登校0・言葉遣い	A	B	●言葉遣いや態度等は引き続き指導していく。	B	言葉遣いや態度については家庭にもしっかり伝え、啓発していかなくてはならない。	学校全体で情報を共有し、一貫した指導を行う。（週、月目標の活用）
特別支援教育の推進	インクルーシブ教育の推進	特別支援教育の理解啓発と授業における工夫	通級指導学級との連携を深め、相手を意識し思いやりの気持ちをもつ子供の育成	互いの理解と成長により自己肯定感が高まり、他者理解が進む。	C	C	○教員間での連携は密にできた。 ●全校児童に理解教育を行っていく。	B	理解はされつつある。子ども同士に優しさや温かさが生まれるように指導して欲しい。	保護者の啓発も重要視する。思いやりの心を育てる。
	エンカレッジルームの活用推進	支援を必要とする児童生徒へのエンカレッジルームを活用しての支援の充実	環境の整備 人員の配置	児童一人一人のニーズに応じた適切な指導による学ぶ意欲の向上	A	B	○計画的に運営ができた。 ●支援の仕方について方策を立てる。	A	きめ細かい配慮が認められる。	担任と担当の連携強化。教材教具の準備。